

シェアから生まれる 豊かな空間

築120年の建物に
新たな息が吹き込まれた空間は、
本を読んだり、和紙に触れたり、
自由に表現したり、
そこは自分らしくいられる場所。
各々が心地よく楽しいことを
シェアすれば、
未来は希望で溢れている。



インタビューした人々



成田幸子さん
シェアアトリエなるたのオーナー。「自然派工房なるた」の屋号も持ち、和紙のアクセサリーを制作している。絵画、木工、デザインと、幅広く制作。



成田良治さん
埼玉から愛媛に帰ってきた成田さんの甥。料理上手でアトリエの運営に欠かせない存在だ。サイクリングが好きで、雪の日も写真を撮りに出かけていた。



酒井大輔さん
千葉県出身。graft 代表。木造建築士。シェアアトリエの設計を手がける。息抜きは、ギターの弾き語り。高校時代、フォーク部に在籍していたそうだ。



青山優歩さん
静岡県出身。東京、岐阜、徳島を経て、2018年に愛媛県へ移住。シェアするメンバーの一人。貸本屋「ゆるやか文庫」を運営。美味しいものを食べることが、自分へのご褒美。

過去から未来へ ものづくりの場をシェア

手仕事のまち、内子町五十崎。小田川沿いの古い商店街の外れに佇む、成田家具店の築120年の建物が「シェアアトリエなるた」。和紙職人の店「こまじ」と紙とあそぶ、和紙と暮らす「貸本屋の「ゆるやか文庫」、建築設計事務所の「graft」がこの建物をシェアしていて、何だか賑やかだ。この日は、オーナーの成田幸子さんの甥にあたる成田良治さんが自家製のスコーンとジャムを持ってきていて、珈琲でほっと一息ティータイム。良治さんは、「活気が出ていいですね。物心ついた時にはここで家具の製造はほとんどやっていなくて。だから若い人が関わってくれて、それが馴染んでいて嬉しい」と語る。

この建物の改修を手がけたのは、graftの酒井大輔さん。現在、2階に事務所を構えるべく、準備中だ。「ここができたのは、建物よりも人ありき。成田さんとの出会ったこと、当時は振り返る。

それは、2018年に開催された内子町の古民家ゲストハウス「内子晴れ」1周年記念のトークイベント。そこで、「古い建物は必ずしも残さなくてもいい。役目を終えて残そうという人がいないなら、壊してもいいと思う」と話した酒井さん。

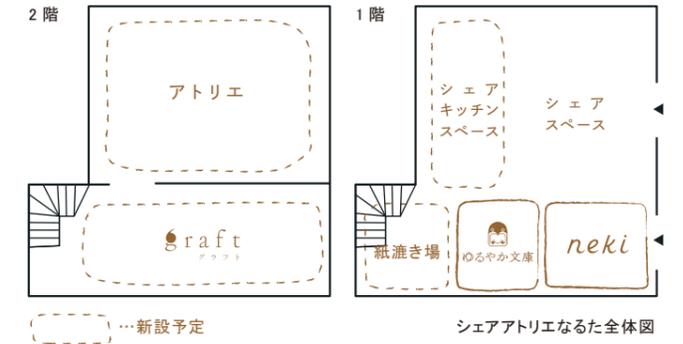
「父の店を駐車場にしてしまうのは忍びない」と思っていた成田さんには強く印象に残り、酒井さんに相談してみたくなる。

しかし、どのように活用していくのか、なかなか決まらなかった。絵を描くことやものづくりが好き、人が集まる場所にもしたいという成田さんに、酒井さんはシェアアトリエを提案した。

「この仕事を受けようと思ったのは、家具職人であった成田さんのお父様の存在なんです。お父様から脈々と続いているのはものづくりの心だと思って。それを成田さんが受け継いでいるんですよ。そういう魂を持った人がこを残そうと思っているというのは、それはシェアじゃないですか。過去のつながりから未来に続く。これは設計士としてチャレンジだなと思った」

だからこそ、建物の設計だけではなく、運営面でも成田さんに寄り添った。未来というキーワードから、次世代、つまり若者が集える場所をイメージした酒井さん。お金がないために、やりたいことができない若者の気持ちは実体験としてよく分かる。雑貨店を経営していた経験があり、店を始めたい人の相談にも乗れる。見守り、手助けする場所として、シェアアトリエというのは何か表現したい人たちにはすごくいいと思えて、動き出した。「そう決意したら、一緒にやろうと思える若者に会ったんです」

空間をシェアする



ゆるやか文庫

グラフィックデザイナーの青山さんが集めた本や雑誌、絵本に触れることができる貸本屋。紙の質感や印刷、手仕事にまつわる独自の蔵書を楽しめる。絵本やリトルプレスも。紙をこよなく愛する仲間たちと「手と紙」の運営もしていて、手紙にまつわるイベントも開催している。写真右下のポストからは、実際に手紙が出せる。

<http://yuruyakabunko.main.jp>



neki- 和紙とあそぶ、和紙と暮らす

和紙職人・酒井真弓さんのショップ。大洲和紙やその雑貨を取り扱う他、イベントも開催している。今後は、紙漉き場を整え、制作を増やし、ものづくりを軸足を移していく予定だ。写真左下の和紙コースターは、真弓さんが紙を漉き、県内のクリエイター harinoki がデザインした原画を青山さんがシルクスクリーンでプリントしたコラボ商品。

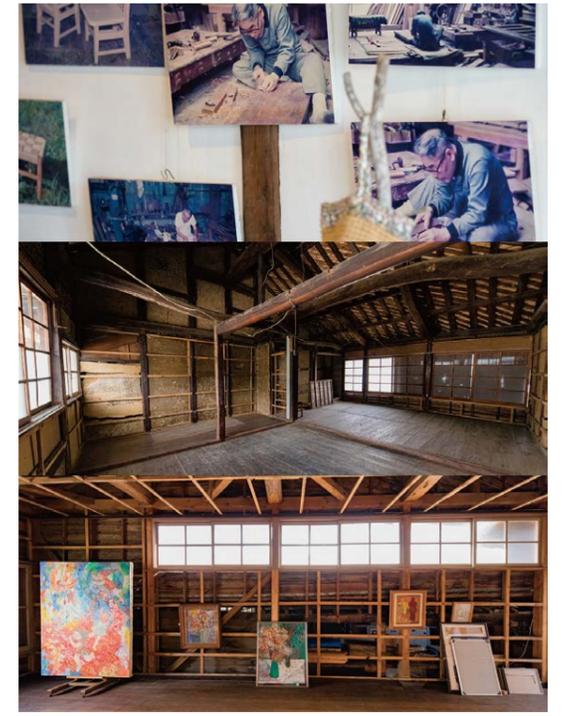
<https://nekiwashi.theshop.jp>



graft

古民家のリノベーション、伝統構法の住宅や店舗設計を手がける建築デザイン事務所。県内の現場を旅するかのよう、駆け回っている。卯之町パールOTO (2 ページ) の改修にも携わった。シェアアトリエなるたの 2 階 (写真の部屋) に事務所を構え、ゆくゆくは推奨する自然素材の建材に触れられる場に発展させる予定。

<https://graft.life>



シェアアトリエなるた

成田家具店の築 120 年の建物をリノベーションし、2階は現在も改修中。オーナーの成田さんのお父様の写真が飾られていて、家具工房であった当時を感じさせる (写真上)。2階の大きな空間 (写真中央) は、アトリエやギャラリーなど、様々な活用が期待される。成田さんの作品も残る。



シェアアトリエなるた

愛媛県喜多郡内子町五十崎甲 912-9

問い合わせは、DM 等でシェアメンバーへ連絡を。

の店を構えていた。そこを間借りし、押入れを本棚にしてスタート。酒井さんから声がかかり、今の場所に拠点を移した。今後は、真弓さんは、アトリエ内に紙漉き場をつくり、和紙職人としてオリジナルの和紙を作っていく予定だ。その紙も含めて、好きな紙を選び、活版印刷やシルクスクリーンで印刷する、そんな紙にこだわられる印刷所をつくる予定で準備を進める青山さん。ゆくゆくは、紙から出版物までのすべてをこの町内でできれば、というのが夢だ。

他にも、珈琲の焙煎人やエスニックの料理人も関わってくれるようになり、チームとして、できることが増えた。

仕事を生み、それをシェアして発展させていく、そんな循環を願う酒井さん。「若者がどんどん来て、果立つ場所になればいい」とシェアするその先を描いていた。

「世界が広がる」

シェアすることで

酒井さんが一緒にやりたいと思った若者の一人が、「ゆるやか文庫」を主宰する青山優歩さん。内子に移住する前は、徳島の阿波和紙伝統産業会館で和紙を販売する仕事をしていた。「neki」の酒井真弓さんが見学に来てくれた時に大洲和紙を知り、意気投合。2週間後に自ら内子を訪ね、伝統的な町並みを見たり、真弓さんと語りあった。そこで、「一つの産地の和紙だけでなく、和紙全体を広めて、残していきたい」という自分の軸が決まる。また、真弓さんが個人で活動している様子から、この地ならやりたいことが実現できる気がした。本来は慎重な性格という青山さんだが、この時は仕事も決めず、勢いで移住を決める。

本が趣味の青山さんにとって、本の紙質やバラバラとめくる手触りに浸る時間は至福のひと時。大切に集めてきた蔵書を公開してシェアしたいと思うようになる。「私が貸本屋を開くことで、個人で貸本屋を開く人がもっと増えたらいいな」と思っていて。そんなお互いシェアしあう関係だったら、無理なく新しい情報にも触れられる。」

そんな青山さんのアイデアを聞き、「うちの2階にスペースがあるからやってみたら」と背中を押してくれたのが、真弓さん。当時は内子の伝建地区の近く「neki-